

丁寧で、美しい字を書くということ

私は自分が字を上手に書けないものですから、美しい字の書ける人がとってもうらやまして仕方ありません。美しく書かれた字を見ると、書いた人の知性や品格の高さを感じます。字の丁寧さや美しさが、その人の人となりをあらわしているように思ってしまうのです。立場上、論文等の審査に立ち会う機会もありますが、読みにくい乱れた字に出会うと内容がなかなか頭に入ってこないというようなこともよくあるわけです。授業の様子を見ながら各教室をまわっていて、いつも感じるのは、本校の生徒がノートやプリントに書く字がとっても丁寧で、美しいということです。担任や数学の教科担任をしていた時には、上手でなくてもいいから丁寧に書くようにと再三指導していましたが、覚えがありますが、本校の生徒には必要ないようです。

小学校で丁寧に指導いただいていることが中学校での姿につながっていると感じています。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果に目をやると、本校の漢字の行書の読みやすい書き方について理解している生徒の割合は、95%と県や全国平均を5%近く上回っていることに気が付きました。漢字の行書とそれ

に調和した仮名の書き方を理解している生徒の割合は、90%と県や全国平均を8%以上も上回っています。この数値からも、本校の生徒の字に対する意識の高さを感じているところです。

少し前になりますが、夏休み前に本校で教育実習を実施した卒業生からお礼の手紙が届きました。そこには実習でお世話になった先生方へのお礼や本校の生徒との出会いが教職への志を一層強くしたという思いが、丁寧で美しい手書きの文字でした。スマートフォンやタブレット等、情報機器の普及に伴い、手書きの礼状を見る機会がめっきり少なくなりました。私も手紙を書くことよと思いついてしまっているのが日常です。手書きの手紙を受け取った時に伝わってくる心の温かさは、ワープロで印字された文書やメールの絵文字とは比べものになりません。さすが本校の卒業生です。

10年以上前、通知表の所見が手書きから印字に代わろうとする時代に、手書きの温かさを強く主張した覚えがありますが、時代の流れには逆らえませんでした。本校の通知表には所見はありませんが、三者懇談で直接お会いして、お子様の活躍や頑張りの様子を、手書きの文字以上の担任の心のこもった温かな言葉でお伝えさせていただきます。

校長 太田 紀宏

